



谷口 嘉 硝子展 風の光 CALM OF LIGHT
2020年6月20日(土) ~28(日) 会期中無休

GALLERY
うつわノート

料金後納
ゆうメール

谷口 嘉 硝子展 凧の光 CALM OF LIGHT

2020年6月20日(土)～28日(日)

営業時間 11時～18時 作家在廊日 6月20日

ギャラリーうつわノート 埼玉県川越市小仙波町1-7-6

ガラスの美しさは光との相関性で成り立っている訳で、熱による成形で得られる物理的な結果は、作る側の造形が先立つか、あるいは反射する光の見え方がそれを上回るかに分かれるでしょう。谷口嘉さんの場合は、後者のようにガラス素材の持つ特性に添って客観性を保つことに意識が向いているようです。コンクリートで作った型にガラスを吹き込んで成形する「型吹き」という方法で制作しています。本来、「型吹き」は主に量産品を作る際に使われますが、谷口さんの場合、一品づつ作る過程で生まれる微妙な揺らぎを活かすために用いています。それによって理化学機器の冷静さと昭和レトロな板ガラスの不安定さを併せ持つ独特の存在となるのです。いわば個人の動的な表現を抑制して、素材と一定の距離感を保つための手法に思えます。その結果生まれるガラスは、まるで凧いだ海のような静けさです。風が止まり海面に反射する光。そこには音がない。谷口さんのガラスは斯様に時間が静止した印象があるのです。それはガラスの物理的特性を過剰に変化させず、脆くて壊れ易いがゆえに備わる儚さを受け入れ、その繊細な美しさを素直に引き出そうとする受動的態度から生まれるのでしょうか。使う側に歩み寄るだけではなく、実用との境界にあるガラスの美の極を捉えようとしています。今展では、プレート、グラス、鉢、ピッチャー、花瓶が並びます。どうぞこの機会に凧の光が美しい谷口さんのガラスに触れてみて下さい。 店主

谷口 嘉 (たにぐち・よしみ) 略歴

1978年 神奈川県生まれ

2001年 多摩美術大学デザイン科ガラスコース卒業
あづみ野ガラス工房勤務(～06)

2006年 多摩美術大学工芸学科ガラス研究室助手(～12)

2005年～ グループ展、個展にて活動

2020年 現在、神奈川県川崎市にて制作



電車：川越駅(東武東上線・JR)より徒歩25分

本川越駅(西武新宿線)より徒歩20分

バス：駅東口3番乗場 [小江戸名所めぐり]～[喜多院前]

駅西口2番乗場 [小江戸巡回バス]～[喜多院]

車：ギャラリー専用の駐車場は北側(5～8番)

